

R体α・リポ酸ほか

糖代謝を促進し、糖化抑制で美肌訴求

◎ シクロケム

シクロケム(東京都中央区、☎03・5614・7147)は、アンチエイジング素材として、γシクロデキストリン(γCD包接体)で包接した「R体α・リポ酸」(CαQ10)を提案している。R体α・リポ酸(γCD包接体)は、体内でインスリン抵抗性を改善する働きで、体内の糖を適切に代謝させ、肌コラーゲンの糖による架橋を抑制する作用を持つ。それにより、肌の弾力性の向

上が可能だ。その効果はS体よりもR体のほうが効果的であることは試験で明らかになっている。この糖代謝の際には、αリポ酸が還元型のシヒドロリポ酸に変化するため、生体内の酸化したヒタミンEやCαQ10などの酸化物質を再生する働きもある。また、「老化遺伝子の鍵」とも呼ばれるNF-kB(エヌエフカッパービー)の活性を抑制する

働きで、シミやシワを改善する作用を確認。糖代謝や遺伝子へのアプローチといった点で差別化が可能な美容素材として注目を集めている。食品用途でのCαQ10(γCD包接)は、γシクロデキストリンで包接することで、熱や光に対する安定性を高めているほか、生体利用率も大幅に向上している。CαQ10は、ミトコンドリアに働きかけ、線維芽細胞を活性化することで、ヒアルロン酸やコラーゲンなどの成分合成を促進させる。化粧品用途のCαQ10(γCD包接)は、通常のCαQ10と比べ、肌への浸透力が34倍と飛躍的に高められている。同技術は、食品としてCαQ10・γCD包接体を摂取した場合、通常のCαQ10よりも吸収性が高くなるというメカニズムを解明したことから、

化粧品への応用技術が開発された。人の細胞を培養した生体膜モデルとして、ヒト3次元培養表皮を用いた実験では、CαQ10・γ

CD包接体を肌塗布した後、GRZK2(グリチルリチン酸ジカリウム)を重ねて塗布することで、表皮組織への取り込み量が、通常のCαQ10と比べて34倍強に高まったことが確認された。

CD包接体を肌塗布した後、GRZK2(グリチルリチン酸ジカリウム)を重ねて塗布することで、表皮組織への取り込み量が、通常のCαQ10と比べて34倍強に高まったことが確認された。